

今回は、日経新聞の「知って得」から「健康格差」を紹介します。

健康格差：所得などで死亡率に違い！

健康格差とは所得や、学歴、職業などの社会階層で、健康状態や寿命に違いがあることです。社会階層が高い人ほど要介護状態やうつ状態が少なく、死亡率が低い事がわかっています。

愛知県内 5 市町村で 65 歳以上の高齢者 2 万 8162 人を 4 年間追跡研究しました。この間の低所得男性の死亡率は 34.6%と高所得男性の約 3 倍でした。所得についてはアンケートではなく、個人情報削除した介護保険のデータを使用しました。3 倍もの「いのちの格差」を容認できるでしょうか？

死亡率の違いは、所得の低い人が医療機関への受診を抑制したためだけでなく、病気になりやすい傾向があるのも問題です。

一つ目の原因は、生活習慣です。社会階層が低い人は運動不足や高カロリー食の摂取、喫煙など生活習慣が悪いとの報告もあります。

次の原因は、人間関係の影響です。結婚していたり友人が多かったりする人は健康で死亡率が低いことが国内外の疫学調査から分かっています。社会階層が低い層ではこのような社会的ネットワークが乏しい事が多いのです。

最後に、仕事に伴う労働環境です。仕事で労働環境が悪い事が多く、社会的孤立すると周りのサポートが受けられず、うつ状態になりやすくなります。健康情報などに触れる機会が少なくなる事も関わっていると思われます。

1) 健康格差とは？

()

2) 低所得男性と高所得男性の「いのちの格差」は何倍ですか？

()倍

3) 所得の低い人が病気になりやすい傾向がある原因を三つ記載ください

()

()

()

4) 社会階層が低い人の悪い生活習慣を三つ記載ください。

() () ()